

様式第4号(第5条関係)

政務活動費収支報告書

令和 4年 3月 31日

島田市議会議長 大石 節雄様

議員氏名 横山 香理

令和 3年度の政務活動費について、次のとおり報告します。

収入の部

単位：円

項目	決算額	摘要
政務活動費交付金	183,326円	
計	183,326円	

支出の部

単位：円

項目	決算額	摘要
調査研究費	51,822円	
研修費		
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
その他の経費		
計	51,822円	

政務活動費残額 131,504円

※ 調査研究その他の活動の概要及び領収書を添付してください。

## 政務活動費支出決算額明細書

項目	支出明細	領収書貼付用紙 の番号
調査研究費	51,822 円	
	にはま森のようちえん：ようちえんの運営方針と課題について (R4. 1. 12) 久万高原町立父二峰小学校：小規模校の教育方針と課題について (R4. 1. 13)	
	・旅費 36,010 円 /	1
	・にはま森のようちえん視察代 5,000 円 /	2
	・宿泊代 8,850 円 /	3
	・視察先土産代 1,962 円	4

	議長	副議長	事務局長	次長	係長	担当
決裁						

領収書貼付 用紙の番号	1
----------------	---

政務活動出張申請書

令和3年12月21日

島田市議会議長 大石節雄 様

島田市議会議員 横山 香理

市政調査研究（調査研究・研修）のため、下記に出張をいたたく届け出ます。

出張年月日	令和4年1月12日(水)から令和4年1月13日(木)まで
出張先	(1/12) 『NPO法人にいほま森のようちえん』 愛媛県新居浜市垣生五丁目4番14号  (1/13) 『久万高原町立父二峰小学校』 愛媛県上浮穴郡久万高原町露峰甲364
出張の目的	○NPO法人にいほま森のようちえん 全国的に広がりを見せている森のようちえんの現状調査及び 運営上の課題等を収集調査する。  ○久万高原町立父二峰小学校 小規模校である生徒数14名の久万高原町立父二峰小学校の 現状把握および教育方針・課題を調査する
行程・利用交通 (交通手段の理由)	別紙の行程表（交通費計算書）による。
旅費	別紙 政務活動出張旅費支出伝票による

## 目的

少子高齢化が叫ばれる中、当市においては学校統合化が進められ北部4校の統合が予定されている

全国的にはまだまだ小規模校が存在している、今回生徒数14名の久万高原町立父二峰小学校を視察させていただき現状把握および教育方針・課題を調査する

また、近年の子どもをとりまく環境は一段と厳しさを増していると思います、なかでも幼児の自然体験をはじめとする体験活動の欠如が指摘されています。そのような中、乳児・幼少期の子どもたちへ自然体験の機会を提供しようと活動する団体や個人が増え、「森のようちえん」という呼び名の活動が広まってきています。森のようちえんの運営においては『森林環境譲与税』の活用事例もあり、『幼児教育・保育の無償化制度』の利用もされている現状調査及び運営上の課題等の収集。

	議長	副議長	事務局長	次長	係長	担当
決裁			●	●	●	●

領収書添付  
用紙の番号

**政 務 活 動 出 張 旅 費 支 出 伝 票**

出張日	令和 4 年 1 月 12 日	～	令和 4 年 1 月 13 日
出張先	愛媛県新居浜市「NPO法人にいほま森のようちえん」、久万高原町立父二峰小学校		
旅費	交通費	宿泊費	日当
参加者負担金等			
下記計算の 基礎参照	36,010円		
計			36,010円

計算の基礎

旅程	島田	～	掛川	～	新大阪	～	岡山	～	観音寺	～
	多喜浜	～	松山	～	道後温泉駅	～	県庁前	～	久万高原	～
	松山	～	岡山	～	新大阪	～	掛川	～	島田	～

鉄道運賃 ※601キロ以上は往復割引適用(同一経路のみ)、地下鉄等は2キロ以上から

↓片道キロ数

島田	～	松山	( 739.5 km )	往復	21,860円
往復割引	～		( km )	往復	-2,200円
松山	～	道後温泉	( 4.1 km )	片道	180円
道後温泉	～	県庁前	( 2.6 km )	片道	180円
	～		( km )		円
計					20,020円

加算運賃 (JR北海道、四国、九州) km 円

**鉄 道 運 賃 計 20,020 円**

特急料金等 ※乗継割引利用な場合は利用、座席指定の可否確認、片道キロ数確認

新幹線	掛川	～	岡山	503.6 km	往復	10,980円
在来線特急	岡山	～	観音寺	76.5 km	片道	860円
在来線特急	松山	～	岡山	214.4 km	片道	1,470円
座席指定料金		～		( km )	往復	円

↓片道キロ数

車賃(バス)	県庁前	～	久万高原	( 30.7 km )	片道	1,320円
車賃(バス)	久万高原	～	松山	( 32.3 km )		1,360円

航空賃、船賃		～		往復	円
--------	--	---	--	----	---

**交 通 費 合 計 36,010 円**

宿泊料	@13,100 × 泊	円
-----	-------------	---

日当	@2,600 × 日 + @1,300 × 日	円
	↓日当の調整がある場合は、理由を記載すること	
	( )	

その他	現地での移動はタクシーを利用(別途実績による実費)	円
-----	---------------------------	---

**旅 費 合 計 36,010 円**

令和3年12月21日

島田市議会議長 大石 節雄 様

島田市議会議員 横山 香理

政務活動費でのレンタカー、タクシー、新幹線、航空機等の  
使用に関する理由書

政務活動費での研修にあたり、次のとおり特別急行及びタクシーを使用したいので、島田市議会議員政務活動費に関する内規に基づき提出いたします。

記

1. 視察日 令和4年1月12日（水）、13日（木）
2. 申請内容 ①多喜浜駅からいはま森のようちえん活動場所への往復のタクシー利用及び久万高原町立父二峰小学校への最寄りのバス停（久万高原）からの往復のタクシー利用  
②岡山駅と多喜浜駅間の在来線特急の利用
3. 申請理由 ①政務活動出張申請中、いはま森のようちえんの視察に当たり多喜浜駅から活動場所への交通手段がないため、また、久万高原町立父二峰小学校の視察においては久万高原バス停からの公共交通手段がないため、それぞれタクシーを利用したい。  
②岡山駅から多喜浜駅の移動に当たり、特急を利用する以外に視察時間に間に合う列車がないため、規定の100kmには満たないが、特急を使用したい。  
島田市議会議員政務活動費に関する内規第6（3）イの規定に基づきタクシーを、同エの規定に基づき特別急行を使用する行程としたい。

領 収 書 等

項 目	調査研究費		
支出明細	にいほ手 森の幼稚園 視察代	領収書貼付 用紙の番号	2

領 収 証

横山 香理 様 No. 5-4

★ ¥5,000 -

但 視察代として

R4年 1月 12日 上記正に領収いたしました

登録番号 千792-0872 愛媛県新居浜市垣生五丁目4番14号

NPO法人 にはま森のようちえん 温

理事長 白岡

E-mail: nhm\_forest@yahoo.co.jp

収入印紙

内 訳	
現金	/
小切手	/
手 形	/
消費税(10%)	
消費税(8%)	
内税額計	

領 収 書 等

項 目	調 査 研 究 費		
支出明細	宿 泊 代	領収書貼付 用紙の番号	3

No. 00001091-00  
2022/01/12

領 収 書

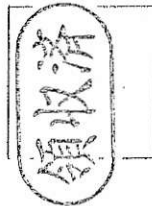
横山 香理 様

金 額 ￥ 8,850 -

(内消費税 ￥804)

但し、ご宿泊代

として、  
上記金額正に領収いたしました。



道後hakuro

〒790-0836 愛媛県松山市道後鷺谷町3番1号  
TEL:089-903-6960 FAX:089-903-3961





領 収 書 等

項 目	調査研究費		
支出明細	手土産代	領収書貼付 用紙の番号	4
〇視察(R4.1.12~R4.1.13)お土産代			

領収証

No. \_\_\_\_\_

緑風しまん(大村泰史)様

4 年 1 月 10 日

金額									
			4	5	8	8	6		

内 消費税等 車8人

但 お品代  
上記正に領収いたしました

現金	✓
小切手	

株式会社 三浦製菓  
〒423-0303 静岡県島田市川根町家山717-5  
TEL 0547-53-2073  
FAX 0547-53-4144  
http://www.chayukan.com  
〒423-0402 静岡県島田市金谷河原1045-3  
TEL 0547-53-2020



領 収 証

横山香理

様 No. \_\_\_\_\_

金額

			1	9	6	2			

内 記

現金

小切手

手形

消費税額等(%)

但 視察お土産代

令和4年1月12日 上記正に領収いたしました

島田市金谷根岸所142-1  
大村泰史

収入印紙

GR1617

視察先

NPO法人いはいま森のようちえん (R4.1.12)

久石高原町立父二峰小学校 (R4.1.13)

$$¥5,886 \div 3 = ¥1,962 \text{ (-入お礼)}$$

## 調査研究報告書

令和4年3月31日

島田市議会議長 大石 節雄 様

島田市議会議員 横山香理



令和3年度の調査研究テーマに基づく活動等について、次のとおり報告します

### 1. 島田市の活性化について

一口に島田市の活性化と言えども切り口は様々であるが、私は最近の地域力の低下を非常に懸念している。コロナ禍で今まで見えてこなかった地域の問題が露呈し、地域行事などの継続の難しさ、地域への関心の希薄、役員の担い手不足などが顕著に表れて地域の在り方そのものを考えなくてはならない時代であると考えている。そこで一人でも多くの地域の若手に、今ある地域課題に目を向けてもらい、課題を共有し、共に考える機会を作り、またどんな小さなことでもいいから、みんなで心ひとつに出来ることを見つけようと、市民協働課とともに初倉における「地域活性化ワークショップ」を行うため年明けから進めている。初倉地区の地元有志で集まったメンバー（男性12名女性12名）でシリーズで行う予定である。令和4年1月14日（金）に、初倉の市民8名（ワークショップ参加者）と市民協働課で車座になって趣旨説明会を行った。和気あいあいとした中にもワークショップに対する非常に前向きで鋭い意見も活発に出され、それをもとに市民協働課でワークショップの概要を作成していただき、コロナ禍ではあるが2月19日（土）夜7時～8時30分の一時間半という短い時間に区切って第一回目を開催した。

当日は男性12名、女性9名が参加し、役所側からも6名参加していただいた。蔓延防止が延長された中であつたが、対策を取りながら開催した。正直こうした時期であることからもっと少ないであろうと思っていたが、ほぼ全員の参加であつた。コロナ禍だからこそこうした人との繋がりを持ちたいし大切にしたいのかも知れない。ワークショップは30年後の未来を予想してから「今何が必要か」をみんなで考え意見を出し合う、そんな内容で行った。今回はまず楽しんで参加すること・また参加したいと思ってもらうことへ視点を置いた。

- ・コロナ禍だからこそ有意義だと感じた
- ・地域愛がこんなにまだ強い人たちがいることが分かった

・今回だけでは時間が足りないためまたやりたい

など前向きな意見が寄せられた。そのため3月26日(土)に第二回目を開催した。ワークショップは今後も続き、更には地域のために何が出来るのかを見つけて取り組むまでに繋げたい。また人数も増やしていく予定である。市や地域への問題意識を持ち、そのために何が出来るのか考えられる人材を発掘していくことも、島田市の活性化には重要な取り組みであると私は常に感じている。そのため、今後も引き続きこの視点から研究テーマとして挙げたい。

## 2. 福祉について

このテーマは毎回掲げている。今回二期目に突入してから、6月の一般質問で「島田市における在宅介護・在宅医療について」を質問した。また令和3年7月15日(木)に島田市のケアマネージャーで構成される「ケアマネット役員会」に初めて参加し意見交換をした。このときは日頃のケアマネージャーからの目線で、貴重な意見を沢山聴かせていただいた。

- ・退院看護師と支援室看護師の意見相違(片方はこのくらいなら患者本人でも出来るという言い分・片方は出来ないという言い分など患者に対しての認識の違い)
- ・病院から療養型への切り替えが多く、もう少し在宅で看られるのではないかと思われる患者がいる
- ・現在ヘルパーが圧倒的に不足している
- ・在宅復帰前のショートステイがあると良い
- ・現在は介護予防へ軸足を置いているが、本当にそれで良いのか。地域の居場所へ参加させたいなら、足の確保が必要である。足がなければ出掛けなくなる。それなら従来通り通所が出来る形をとった方が良いと感じる。
- ・デイサービスの利用制限にこだわりすぎているように感じる
- ・プラン作成…要介護者一軒につき13,000円  
要支援者一軒につき 3,500円  
と差がありすぎる。要支援の方がプラン作成については実際負担である
- ・半年ごとのプラン見直しは不要…

など様々な意見をいただいた。こうした貴重な意見は一般質問で活かし、現場の声を届けたいと考えている。また、今後も継続して会議を通して意見交換会が行えるよう依頼した。なお各地域で開催されている居場所についてはやはり男性の参加者が少ない。今年度は加えて主催する後継者問題の話も出て、一層継続の難しさを感じているところである。今後も引き続き調査研究をしていく。

## 3. 教育について

令和4年1月13日(木)愛媛県上浮穴郡久万高原にある、小規模校「久万高原町立父二峰小学校」を視察した。町全体の考え方として、地域とともにある学校づ

くりに力を入れている。少人数ならでは、ひとりひとりに対しての学習もきめ細やかで目も充分行き届いていた。ただ中学校と何か連携した取り組みは行われていないという。私の住む初倉地域は施設一体型の小中一貫教育として現在話が進められている。勿論地元市民からは賛否意見をいただくことはある。しかし私は自分の経験から小中一貫教育については賛成する。なぜなら例えばアレルギーや喘息など何らかの疾患がある子どもや、発達に課題が見られる子ども、または家族など子どもを取り巻く背景の複雑化など、長期に渡って支援の手がほしい子ども、または切れ目のない支援を必要とする子どもなどに対して、9年間という長期的支援がしやすくなるからである。特に発達に課題がある子どもに対してはレッテルを貼るのではなく、小さいうちに特性を掴み、将来に向けて長所を出来る限り伸ばして、成功体験を重ねることが必要であると考え。自己肯定感を持たせることが何より大事である。また特にこうしたことがなくても、小中一貫教育は学校全体で目標を掲げた場合、その目標に一体となって取り組みやすく連携しやすい環境ではないかと私自身は感じる。ただ地域住民にはまだ充分理解が得られていないところもあると感じる。そこは丁寧に時間をかけて説明していく必要がある。それについては今後も市にお願いをしていきたいと思っている。

#### 4. 防災について

令和3年12月5日(日)に初倉の大柳・中河・井口の三町合同防災訓練に参加した。当日は簡易トイレ・簡易ベッド・簡易間仕切りなどの組み立てを行ったり、あるいは避難者受付などの準備をした。ただ実際避難所を利用できるのは限られた人数ではないかと思える。また未曾有の大災害が起きた場合、そのような準備は冷静に出来るかかなり疑問である。簡易トイレも大災害時には使用せざるを得ないのかも知れないが、冷静に見るととても大勢の人数が使用できるようなものではない。それでも高齢世帯や重症者、または家が全壊した人などが避難所を利用することを考えると、そこに集まった人で組み立てなどの準備がスムーズに出来るように、使用手順などを誰が見ても分かりやすく分かりやすい場所に明記しておく必要があるのではないかと思った。また地域の防災委員やこの三町合同の防災委員の選出に関して、同じ地域の中でも隣組によって選出方法や任期期間がバラバラである。一年ごとで交代する所や三年で交代する所もあり、交代するのならいいが、同じ人がもう何年にも渡り継続している所もある。これは問題であると思う。私自身の地域がそうであり、今回の訓練で隣組によってこんなにもバラバラであることがよく分かったため、ある程度任期の統一性など防災委員長と自治会長に改善のお願いをした。コロナ禍で防災訓練もままならないこともあるが、訓練はやはり大事であると思う。三町合同の訓練は今回初めてであるが、頻繁にやってこそである。そして日頃の近所付き合いが大災害時に一番力を発揮するのだと思う。コロナ禍でも防災訓練だけはどのような形でも行う必要があると私は思っている。

# 報 告 書

令知  
平成 4 年 1 月 19 日

島田市議会議長 大石 節 夫 様

島田市議会議員 横山 香理

市政調査研究（調査研究・研修）のため、出張したので報告します。

出張年月日	令知 平成 4 年 1 月 12 日 から 令知 平成 4 年 1 月 13 日まで
1 調査研究 出張先及び 調査項目 2 研修 研修名、出張先及 び主催者	NPO 法人 にいはま森のまちえん ・ にいはま森のまちえんの運営方針 について 久手高原町立 父二峰 小学校 ・ 小規模校の教育方針 について
報告事項	別紙の通り

## 報告書

### 1. NPO 法人 にいはま森のようちえん

令和4年1月12日、愛媛県新居浜市にある「にいはま森のようちえん」を視察した。

- ・ 設立日：2020年4月1日
- ・ 時 間：平日9：00～14：00
- ・ 延 長：月・金9：00～18：00
- ・ 対 象：満2歳～就学前まで
- ・ 定 員：2歳…4人・3歳…7人・4歳…8人・5歳…8人
- ・ 保育料：入園料…10,000円（R5年度以降50,000円）  
満2歳…20,000円（R5年度以降25,000円）  
年少以上57,000円（保育認定で市から37,000円補助あり）  
年少以上きょうだい割 40,000円
- ・ 昼 食：週2回（火・木）給食弁当
- ・ 背 景：屋外で親子の繋がりを持てる場が十分でないことから、屋外の活動を通して、子どもの外で遊びたいという欲求を満たしつつ、保護者の横の繋がりを作る場所を作りたい、そこで得た子育ての知識を参加者・スタッフで共有し、親の教育力を育てたいという思いから設立に至った。
- ・ 特 徴：自然の中で思いっきり遊ぶ  
\*新居浜の豊かな自然の中で一日を過ごす  
寄り添いながら信じて待つ  
\*子どもたちの自主性、創造性、想像力、感性を大切にする  
自分で気づく力を育む  
\*先手を打つのではなく、その子の気づきを大切にする

### まとめ

認可外保育ということで、さまざまな問題が発生していることが分かった。現在子どもは10人で、来年4月には5人入園予定ということである。職員は現在8人。保育士の免許を持った人ばかりではなく、むしろ免許を持たない職員ばかりである。園舎内で活動することはなく、山や川など4つの基地を持ち、前日に明日活動したい場所を子どもたちに決めさせて、基本現地に保護者が送り迎えをするというスタイルをとっている。



園舎での活動ではないため、たとえ大雨でも合羽を着て屋外活動をするということであった。今まで台風などで活動を中止することはなかったという。視察時は、近所の方がようちえんのために無償で貸してくれている山で、焚火の薪を園児にノコギリで切らせている真っ最中であった。また明日川で遊ぶようにイカダも作っていた。親指がノコギリに触れそうなところにあり、見ている私たちは正直ヒヤヒヤしたが、職員は「危ない!!」などと声かけを一切せず、目の前でじっと見守る姿が印象的であった。まさに先手を打つのではなく、見守り保育を実践されていると感じた。なおこの山はもともと荒れ放題であったが、活動できるように草刈りや簡単なトイレなど職員が整備し、なんとか活動できるようになったという。園児と一緒に作物を育てる小さな畑もあった。一日を通して屋外で過ごすため、屋内より危険が伴うリスクも大きいことから、保育士が見学に来てもなかなか採用には至らないという。それは保護者にとっても同じで、一日中屋外活動となれば預ける方も相当の勇気がある。園の方針を理解しなければ到底難しいと感じる。こうしたことから行政の理解が進まず、認可外保育のため高額の保育料を保護者が負担し、そのほとんどが人件費となる。すべて屋外活動であるから季節もいい時ばかりではなく、職員の体力も時として奪われる過酷な労働条件にも関わらず、一時間821円単価であるという話も伺った。ここまでしても運営しているのは、子どもが将来自分の力で自分の人生を切り開いていける、自分の進んだ道に責任が持てる強く筋のある子どもに育てるため、その土台作りはまさに今であるという職員ひとりひとりの熱い思いから成り立っているのではないかと思える。実際園の方針が保護者とマッチし10人の子どもが通園している。行政にその思いが届けば良いと強く感じた。また時代の背景などから多様な保育の在り方を非常に考えさせられた視察となった。

## 2. 久万高原町立父二峰小学校

令和4年1月13日、愛媛県上浮穴郡久万高原にある小規模校「久万高原町立父二峰小学校」を視察した。

- ・まちの概要：久万高原町は愛媛県中央部に位置し、旧久万町から県都松山市の中心部までは約34km、バスで約1時間の距離にある。南北は約30km、東西約28km、総面積は約584K㎡で、標高1,000mを超える四国山地の山々に囲まれた中山間地域である。気温は概して低く夏季は冷涼、冬季は寒冷が厳しく積雪があり、台風の常襲地帯に属している。

もとは1町・9村が各々存在していたが合併を繰り返し、平成16年8月に「久万高原町」として現在に至る。2021年12月の人口は7,686人、世帯数は4,238戸である。こうした小さな町の中に小学校9校・中学校2校が存在する。

- ・方針：愛媛県としては統廃合を進めているが、町としては子どもを大切にすることにより地域を衰退させないために、これ以上学校の統廃合はしない意向。

#### <学校目標>

心豊かで 活力ある 父二峰っ子の育成

地域に根ざし、共に歩む学校づくり

地域の応援団と連携した学校づくり

現在男子6名・女子8名が通学している。徒歩4名・バス4名・保護者の送迎6名

130年の歴史がある。また幼稚園と併設する（渡り廊下で繋がっている）

#### まとめ

町全体の考え方として、地域とともにある学校づくりに力を入れていて、学校も地域もそれに向かって一生懸命取り組んでいることが感じられた。少人数ならではの、ひとりひとりに対しての学習もきめ細やかで目も充分行き届いている。また図書館がないため月一回移動図書館も来ている。季節の行事（サツマイモ堀り・稲刈り・銀杏収穫作業・運動会・学芸会など）は特に地域の方々と共に開催することを大切にしていることが感じられた。また小規模校だからこそ地域の方も入りやすいのではないかと思う。一方でますます人口減少が進む中で、児童確保に向けての大きな課題がある。農業体験を通じての移住者確保に全力を挙げているようだが、小学校7校・中学校2校をこの町の規模で存続していくためには、相当の労力が必要であると考えます。また視察した小学校は幼稚園こそ併設されているが、中学校までは大分距離がある。中学校と何か連携した取り組みは現在行われていないという。そこも若干気になる点ではある。私の地域では小・中一貫教育に向けて議論が交わされている。小規模校のメリット・デメリットも今回の視察で非常によく理解出来たため、今後の議論に活かしていきたいと思う。